

自 2022年4月 1日  
至 2023年3月31日

## 2022年度 事業報告書



公益財団法人ハーモニセンター

## 目次

2022年度の概況 .....	1
1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営 .....	2
1.1. キャンプ	
1.2. 日帰り企画	
1.3. 蓼科ポニー牧場	
1.4. 相馬ポニー牧場	
1.5. 小貝川ポニー牧場	
2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理 .....	7
2.1. 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の4年目)	
2.2. 水元スポーツセンター公園子ども動物広場(受託・1年契約)	
2.3. 相模原麻溝公園ふれあい動物広場(指定管理・指定期間5年の4年目)	
2.4. 板橋区こども動物園(指定管理・指定期間5年の3年目)	
2.5. 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)	
3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及 .....	10
3.1. 「馬のいる領域」研究集会	
3.2. 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業	
3.3. クラウドファンディングによる障害者施設への移動動物教室の提供	
3.4. 馬が介在する活動の運営に関する指導と実習の場等の提供	
4. 川べり環境の整備及び活用の推進 .....	11
4.1. カヤック教室・水辺でのプログラム	
4.2. 河川騎馬パトロール	
5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進 .....	12
5.1. モンゴル大草原乗馬交流	
5.2. 日独青少年相互交流計画	
6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信 .....	13
6.1. 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行	
6.2. WEB広報	
7. その他 .....	14
7.1. 規程変更	
7.2. 馬の管理	
7.3. カウンセラー・職員等の研修	
7.4. 会議等	
7.5. 法人事務	
7.6. 賛助会員	

## 2022年度の概況

この年度も新型コロナウイルス感染症の影響は残りましたが、ハーモニーセンターの事業全体を通じて活動の機会を取り戻そうという強いうねりを感じ、回復を実感する一年となりました。

キャンプはひとつも中止することなく、予定していたすべてを実施することができました。前年度は夏休みのほとんどのキャンプを行うことができませんでしたので、このことは大きな喜びです。また、多くのキャンプで定員を感染防止の対策として設定していた30名から50名に増やし、受託キャンプも含めた実施本数は前年度比14増となりました。これにより、キャンプ参加者総数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2018年度に迫るほどとなっています。

キャンプなどの自主事業の重要な担い手であるカウンセラーの新規登録数は、前年度比2割増となりました。カウンセラー同士が直接対面して活動する機会も戻りつつあります。そんな中、カウンセラーの主体的な活動の機運も高まり、カウンセラー自主企画「ハモタウン」は成功裏に終わりました。今後のさらなる活動の広がりが期待されます。

ふれあい動物広場等の受託施設も、利用にかかる制限は年度の後半にかけて徐々に緩和され、利用者数が回復してきました。各種イベントも、規模の縮小や感染防止のための制限は残りましたが、各所で実施され、好評を得ました。また、医療的ケア児を対象とするプログラム提供の検討や学校へ行くことを躊躇する子供たちの試験的な受入が行われたことは特筆すべきでしょう。これは、医療的ケア児支援法(2021年)や教育機会確保法(2016年)の施行を反映した動きです。ポニーなどの動物が介在する活動へのニーズは、今後さらに対象を広げて高まると予想されます。これまでに培ってきたノウハウを生かしつつ、ハーモニーセンター単独では持ち得ない知見を専門家等に求めながら、さらなる社会貢献を探ることとなります。

職員のスキルアップに関しては、前年度から準備を進めてきた「ポニー乗馬指導者技能認定制度」をスタートし、蓼科ポニー牧場スタッフによる各現場の巡回研修も行いました。これらの取り組みを通じて、職員の馬に関するスキル向上の意欲を高めています。また、もうひとつの新たな取り組みとして、アメリカキャンプ協会の年次大会に職員を派遣しました。こうした研修機会を通じた職員の資質向上は、Riding for Allの実現につながる重要な要素であると考えています。

2023年5月には、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症となり、多くの制限が撤廃される予定です。キャンプに、牧場に、ふれあい動物広場にさらなる賑わいが戻ってくることでしょう。この年度の活動を通じて、そのための備えを行うことができたと考えています。

## 1. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の運営

### 1.1. キャンプ

前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響があり対策は継続したが、コロナ禍が始まって以降初めて、ひとつも中止することなく、予定していたキャンプをすべて実施することができた。また、ポニーキャンプの定員を夏休み以降、感染防止の対策として設定していた定員30名から50名へ増やす、移動手段を電車に戻すなど、情勢をみながら制限の緩和を進めた。

主催キャンプは、ポニー19、ハケ岳1、スキー3、スケート2、野外キャンプ1、ファミリー8の合計34コースを実施、昨年度比10コース増となった。受託キャンプは合計4コースを実施。昨年まで蓼科で実施していた六日町キャンプが中止となったが、東北でのいちごっこキャンプが再開したほか、新たに慶應小学校や幼稚園の子供を対象としたキャンプを行った。キャンプの合計は38コース、参加者1,170名となり、昨年よりも13コース、参加者626名と大幅に増加した。結果として、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前の2018年度と比べても、同程度(2018年度:1,220名)の参加者を得ることができた。

2023年度は、新型コロナウイルス感染症の影響がより少なくなると予想されるため、キャンプの意義と社会情勢のバランスを見ながら新たなルールへの見直しを進めると同時に、既存キャンプ以外の新規キャンプや平日利用の受託キャンプなどの開拓を進める。



## 1.2. 日帰り企画

昨年度は夏キャンプの中止に伴い、子供たちの活動を止めないための代替事業として日帰り企画を多数実施したが、今年度は宿泊キャンプが予定通り行えたため、全体としては昨年よりも少なくなった。しかし、夏休みには小貝川のワンデイキャンプを6コース実施したほか、高尾山登山を他団体と合同で実施した。また、カウンセラー達が主体となり小貝川で行った「ハモタウン」には約70名が参加。OBOGカウンセラーの家族が来てくれるなど、カウンセラー達のがんばりが形になり、多くの人に喜ばれる企画となった。



## 1.3. 蓼科ポニー牧場

子供たちがコロナ禍によって受けたダメージから回復させたいという、強いうねりを感じさせる一年であった。宿泊の受け入れに関してはまだまだ手探りの部分があるが、おおらかな感性や覚悟を持った受け入れ姿勢は、子供達によい影響を与えている。昨年度に引き続き、週末の宿泊事業や乗馬レッスンだけでなく、不登校児支援プログラム「ひだまりファーム」、牧場を拠点とした野外保育「牧場ようちえん ぽっこ」などもあり、平日にも子供の笑顔が見られ、声が響いていた。また、OBOG会の宿泊利用が例年より増え、居場所としてのポニー牧場の意味合いを考えることとなった。

ここ数年は、小学校へのポニー派遣等を通して地域への周知を図り、つながりを持つこと、利用者のニーズに応えた運営することを意識しており、利用者数は年々増え続けている。コロナ禍前と比較しても、レッスン・引き馬利用者は40%近く増え、地域内でも認知されてきたように感じる。自主事業のシンボルとして、理念や想いを発信し続ける現場にしていきたい。



### A. 宿泊の牧場利用

昨年度同様、感染対策を取りながらの実施となった。宿泊利用自体は、コロナ禍以前よりも増え、丁寧な運営が実を結んできたことを実感した。

自主事業キャンプ:19回(50泊) ファミリーキャンプ:7回(8泊)

広場キャンプ:9回(18泊) OB会:6回(7泊) ライダースカップ合宿:2回(5泊)

他団体利用:2回(3泊)

## B. 研修

職員の馬取扱い・乗馬技能向上及び、全国乗馬倶楽部振興協会の乗馬指導者資格者を増員すべく、新たに法人内乗馬技能検定を導入した。また、通年で各現場を巡回しての研修を実施した。職員の技能向上が効果の高いリスクマネジメントに繋がることを期待し、継続的に実施していきたい。また、法人として設定した研修とは別に、職員が自主的に蓼科へ来場し、乗馬技術を磨こうとしている機会も多く見るようになった。

職員・カウンセラー宿泊研修:5回(13泊) 巡回研修:6回6事業所

## C. 日帰り団体の牧場利用

立科白樺高原ユースホステルより「馬の学校」(障害児ファミリー)8名(2回)、フォースマイル(地域居場所作り事業団体)より10名(2回)を受け入れた。

## D. 蓼科ジュニアポニークラブ(TJPC)

小1～中3を対象に月2回実施した。高校生OBがボランティアとして参加するほか、年間を通じて多くの活動に父兄が関わっている。参加者は地元中心であるが、東京からの参加者もいる。

実施回数:22回 延べ参加者:468名

月謝制¥5,500

行事:前後期保護者会(年間)・ライダーズカップ

牧場フェスティバル・クリスマス会・成果発表会など



## E. 移動乗馬教室

7月に1泊2日で新潟日報メディアシップ移動乗馬、9月、11月には、JRAの助成を受け、南魚沼市・茅野市内の保育園、小学校を訪問した。

7月2日～3日 新潟日報メディアシップ のべ6頭

9月26日～10月1日 JRA 南魚沼 のべ36頭 11か所訪問

11月8日～11日 JRA 蓼科 のべ24頭 8か所訪問

## F. 牧場レッスン・引き馬

利用者が増え、レッスンは前年比プラス30%、引き馬は前年比プラス101%であった。

## G. その他

- ・ 第9回ポニーライダーズカップ

10月15日・16日に「ポニーライダーズカップ」を開催し、総勢103名が参加した。ハーモニカレヅジからも15名が、3年ぶりに参加を果たした。

- ・ ひだまりファーム

公益財団法人ノビアグリーン財団の助成を受け、不登校児の居場所事業「ひだまりファーム」を40回実施、のべ261名が参加した。

- ・ 牧場ようちえん ぽっこ  
牧場施設を利用した「牧場ようちえん ぽっこ」の活動が年間を通じて行われた。
- ・ ポニーステイ  
長野県伊那市立伊那小学校にクリスターを無償貸与した。
- ・ 職員乗馬研修  
2月21日～25日に8名(内ハーモニカレッジ職員1名)を対象に実施。外部講師として特定非営利活動法人ハーモニカレッジ・中野事務局長を招聘した。
- ・ 牧場フェスティバル  
9月10日・11日に牧場開放事業「牧場フェスティバル」を開催し、引き馬をのべ586名が利用、餌やり体験には230名が参加し、馬とのふれあいを体験した。



#### 1.4. 相馬ポニー牧場

定期的な維持管理を行いながら利活用の検討を進めたが、未利用の状態が続いている。

#### 1.5. 小貝川ポニー牧場

##### A. 日帰り団体の牧場利用

この年度は野外活動機会を求める声が大きくなり、複数の団体の日帰り利用があった。

- ・ 田園調布ワンデイキャンプ  
田園調布在住の方を対象にワンデイキャンプを実施した。午前中は乗馬練習や厩舎掃除、馬とのふれあい体験、午後は小貝川での川遊びやEボート操船などを実施した。  
実施回数:6回 のべ参加人数:102名
- ・ 東京都ひとり親家庭福祉協議会  
東京都在住のひとり親の家庭を対象に、不足しがちな体験を牧場で補うために、午前中は乗馬体験、午後は河川敷の散歩、焼き板作り・こどもの日ののぼり作成体験などを行った。  
実施回数:2回 のべ参加人数:57名



- ・ 茨城県つくば市ラ・フェリーチェ保育園  
ポニーの乗馬体験を河川敷にて実施。同時にカヤックの操船体験も行った。参加人数：117名

## B. ポニー教室

小1～中3を対象に土曜日クラスと日曜日クラスの2つの教室を開催。参加人数が増加したため、定員をそれぞれ5名ずつ増やし、35名ずつとした。開催日は9月までは毎週末実施してきたが、10月よりそれぞれ月2回ずつに変更した。教室の卒業生がボランティアとして参加するほか、保護者の方にも関わりを持っていただいている。参加者は地元取手の他、県内に留まらず近県からも通ってきていただいている。また、教室参加者にとって牧場は居場所の一つとなっており、コロナ禍の影響で不登校になった子供の受け皿として、教室の無い日に牧場作業の手伝いの希望があり、積極的に受け入れた。



実施回数：土曜日クラス36回 日曜日クラス36回 のべ参加者：1,785名

月謝制：取手市内¥5,000・取手市外¥6,000

行事：夏季合宿@蓼科・ライダーズカップ・牧場フェスティバル・クリスマス会・卒業を祝う会など

## C. 移動乗馬教室

移動乗馬教室のポニーと馬運車の提供拠点として活動した。これまで実施してきた勝浦青空マーケット・亘理いちごっこ・JRA東北・水の郷さわら・日体幼稚園に加え、香取ローズガーデン・大田区グリーンフェスタ・板橋区の防災イベントなど新規のプログラムを担当した。新型コロナウイルス感染症の影響で中止となっていた「まつりつくば」での移動乗馬が復活したほか、東京都教育委員会の「子供を笑顔にするプロジェクト」に申し込みがあった小学校や中学校、福祉施設などにポニーを派遣した。

また、日本中央競馬会の要請を受け、日比谷ミッドタウンと二子玉川ライズで行われた馬と馬術競技の広報イベント「馬れる MUSEUM」へポニーを派遣し、非常に多くの人にポニーとのふれあいの機会を提供した。

## D. ポニーステイ

2021年度に引き続き大田区の会員宅へ5日間のポニーステイを行い、障害児・医療的ケア児を含む多くの子供達に体験乗馬を提供した。また、三重県四日市市でポニーを飼育したいという会員の練習のため、3日間のポニーステイを実施した。近隣の幼稚園と神社やこども食堂、福祉施設へ出前のポニー乗馬会・ふれあい体験会を通じて地域へのポニーのお披露目をし、好評を博した。ポニーのいる場所には人が集い、草の根の馬事普及に繋がった。結果として馬のいる生活を好ましく思う人を増やし会員の獲得やワンデイキャンプなど、新たなプログラムに発展した。

## 2. ポニーキャンプ®・ポニークラブ®・動物広場・牧場等の受託管理

### 2.1. 碑文谷公園こども動物広場(指定管理・指定期間5年の4年目)

新型コロナウイルス感染症対策の緩和により、コロナ禍以降最大の約8万人が来園した。特に小動物とのふれあいやポニー乗馬(引馬)は、アットホームな雰囲気の中で気軽に利用ができると好評で、利用者数が伸びた。

またこの年度は、来るポスト・コロナを見据えて、制限がある中での一層の事業内容の充実や保護者の理解促進など、碑文谷公園こども動物広場の魅力の向上と発信に努めた一年でもあった。動物クラブの再開、イベント(ポニーや小動物への餌あげ体験、ウサギとの年賀状記念撮影、現役生・卒業生向けのポニーキャンプ)の復活や保護者向けのポニー教室ミニ体験・説明会の実施など事業の充実を図ったほか、インスタグラムを新たに開設した。

大人のボランティア希望者に変化が見えてきたことも、今年度の特徴だった。広場卒業生に加え、退職後のシニア、病気療養からの社会復帰を目指す方など、まだ少数ではあるが、子供からシニアまで幅広い年齢層から体験活動の場、居場所を求められていると感じた。障害児者の乗馬利用の環境整備についても、行政とともに検討を進めている。今後も基本事業を確実にやりながら、総合的にインクルーシブな動物広場を目指していきたい。



### 2.2. 水元スポーツセンター公園子ども動物広場(受託・1年契約)

この年度も新型コロナウイルス感染症の影響は少なからずあったものの、イベントなどの制限緩和により前年度より利用者増となった。来年度は5月以降個人教室の体制をコロナ禍以前に戻すことが決定しており、更なる利用者の増加が見込まれる。ただ、職員や参加者の半数近くが以前の体制を知らない状況のため、安全管理や職員の育成を徹底していくことが求められる。

開始以来、好評を得て毎回抽選となっている65歳以上対象の「介護予防乗馬」は、高齢者支援課の要請に応え、これまでの3期から4期へ回数を増やして実施した。また、藤沢市で催された「慶育祭」のイベントで軽乗見本チームが4年ぶりに外部で披露を行うなど、明るいニュースが増えてきたと感じている。



### 2.3. 相模原麻溝公園心れあい動物広場(指定管理・指定期間5年の4年目)

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中でも、既存のプログラムをよりよい形で行うことのできた一年であった。そのためか、利用者数も徐々に回復し、来場者アンケートの満足度も上がった。大人向けの「健康づくり乗馬」は定員を超える盛況となり、フェスティバルも規模は縮小したものの3年ぶりに再開し、活気が戻ってきたと感じる。新しい試みとして、南区児童相談センターの協力のもと、学校へ行くことを躊躇する子供たちの受入れを3回行った。最初は緊張していたが、回を重ねるごとに子供達の成長が感じられ、動物やスタッフの力を改めて認識することが出来た。一方で、さがみはらっこポニーキャンプやポニーボランティアの合宿といった宿泊プログラムの参加は伸び悩んでいる状況がある。安心して送り出してもらえるよう、さまざまな取り組みを進めたい。

次年度は指定期間5年の5年目を迎える。ハーモニーセンターらしさを忘れず運営し、継続を目指したい。



### 2.4. 板橋区こども動物園(指定管理・指定期間5年の3年目)

本園はリニューアルオープン後、3年目となった。前年度の経験を活かし、通常プログラムはより高い安全性、利便性を求めて工夫を凝らした。そのため大きな事故やケガ、苦情などもなく一年を終えることができた。

新しい取り組みとして、動物関係ではヤギの橋渡しの準備、以前から要望の多かったミニチュアホースの記念撮影会を行った。地域との連携では、消防署や近隣の大学、プレーパークとの共同プログラムを行ったほか、近隣の東板橋図書館による読み聞かせイベント、就労支援サポート、不登校児の受け入れ事業を定期的に行った。また、利用者の利便性の向上のため、近隣の食品会社に依頼し、キッチンカーの他に土日祝日のみ公園に屋台を出店してもらった。その際はガーデンテーブルとイスを公園に設置し、利用者の利便性に配慮した。

自主企画のイベントでは利用者数を把握し、需要があるものとないものがハッキリしてきたため、担当課と相談し次年度以降プログラム数の調整を行う予定となった。コロナ禍の影響で中止になってしまったひつじの毛刈りは、その様子を動画撮影し、YouTube等で配信を行った。このとき、地域で活動するインフルエンサーに宣伝を依頼した。親子祭りも防災イベントと名前を変え、地域の産官学民と共同で行うイベントとして



実施した。

今後に向けて、Twitterアカウントの開設やGoogleマップのオーナー権限を取得し、SNSを活用した情報発信をより行えるよう準備を進めている。分園では要望が多かったおむつ替えや授乳のスペースを確保し、来年度から行えるように整備した。毎年、来園者の意見を取り入れ、担当課と相談しながらより使いやすく、居心地の良い空間になるように工夫している。

## 2.5. 上千葉砂原公園ふれあい動物広場(1年間の特命随契)

新型コロナウイルス感染症対策の制限が一部緩和されたため、この年は利用者が急増した。特に引き馬コーナーは、前年度比2倍弱の利用があり、2019年度の水準まで回復した。一方、ふれあいコーナーでは整理券配布による利用者数の制限が続いており、利用者数はコロナ禍以前の半数程度で推移している。しかし、そのことにより利用者と一対一で接する場面が増え、しっかりと話をする機会が増えた。

また、動物愛護クラブの活動に関しては特に力を入れたこともあり、多くの参加者を得ることができた。この活動は、子どもたちにとって単に動物とふれあう機会というだけにとどまらず、命の大切さを学んだり、異年齢交流ができたことといった良さがあるので、これからも継続していきたい。

来年度はイベント再開を目指し、さらに親しみやすい動物広場としていきたい。



### 3. 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

#### 3.1. 「馬のいる領域」研究集会

この年度の研究集会はなく、2023年秋の実施に向け準備を進めた。

#### 3.2. 馬の利活用を通じた青少年の健全育成、地域交流等を推進する事業

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会より助成金を得て、神奈川県相模原市・新潟県南魚沼市・長野県茅野市の29施設を訪問。あわせて「人と馬のふれあいによるストレス軽減」調査研究のため4か所の施設を訪問し、のべ3,800人を超える方々に乗馬体験を提供した。

また、蓼科ポニー牧場では「牧場フェスティバル」を9月10日・11日に実施し、約800名の方々が馬とのふれあいを体験した。

相模原市：5月30日～7月3日 児童養護施設や支援学校など9か所を訪問

南魚沼市：9月26日～10月1日 小学校を中心に11か所を訪問

茅野市：9月10・11日・11月8日～11日 不登校児対象事業含めて9か所を訪問

#### 3.3. クラウドファンディングによる障害者施設への移動動物教室の提供

クラウドファンディングサイト「READYFOR」で、法人として2度目のクラウドファンディング『動物とのふれあい体験で、子どもたちや地域の方に笑顔を届けたい！』を実施。221名から、計3,427,300円の支援を得ることができた。12か所の訪問先を選定し、2023年度に順次訪問を行うこととしている。

#### 3.4. 馬が介在する活動の運営に関する指導と実習の場等の提供

大学や専門学校、全国乗馬倶楽部振興協会等の求めに応じて、移動乗馬教室や障害のある子供を対象としたポニー教室の運営など、馬が介在する活動の運営ノウハウを伝える講習・授業を提供した。また、各事業所において、専門学校等の実習の受け入れを行った。

『学びの見える化の理論と実際：教育イノベーションにむけて(神奈川県人文学研究叢書 48)』においては、職員が一項を担当し、青少年に向けた活動の展開について執筆した。



## 4. 川べり環境の整備及び活用の推進

### 4.1. カヤック教室・水辺でのプログラム

昨年度大変好評だったカヤック教室を4回企画した。うち1回は天候と河川状況の不良により中止となったが、のべ31名が参加し、近隣地域での野外活動の需要が高いことが感じられた。

また、活動場所の確保と河川敷整備を目的に、ゴミ拾い、草刈り、ポピーの種蒔きを実施した。田園調布の子供を対象としたワンデイキャンプの際に午後のプログラムとして川遊びを実施。その他、ポニー教室中にプログラムの一環として「河川とプールの違い」「堤防の重要性」など、水辺の安全に関するレクチャーを行った。

### 4.2. 河川騎馬パトロール

茨城県河内町での河川騎馬パトロールは2回の申し込みがあったが、いずれも新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止の決定を受けた。

ポニー教室では日常的に河川敷をポニーで散策しており、豊かな自然を感じながら子供と一緒に川の水量、ゴミ等の漂着物を確認し、日常と比較することで安全確認を行った。



## 5. 国際文化交流、国際相互交流活動の推進

### 5.1. モンゴル大草原乗馬交流

コロナ禍の影響で海外渡航ができず実施できなかった。

### 5.2. 日独青少年相互交流計画

コロナ禍の影響で海外渡航ができず、カウンターパートであるドイツのルドガー氏の体調不良のため、計画していたオンラインでの事業も実施することができなかった。

## 6. 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

### 6.1. 機関紙「THE HARMONY CENTER」の発行

月刊紙として各号2,500部を発行した。

各事業所をより身近に感じてもらえるように「事業所通信」でそれぞれのエピソードを紹介したほか、「事務局便り」として事務局を中心に進められている事業についての報告を毎号掲載するようにした。

### 6.2. WEB広報

ホームページ(<https://harmonycenter.or.jp/>)とSNS(Facebook・Instagram)を利用した情報提供を行った。基本情報の提供だけでなく、キャンプやイベントの告知も積極的に行った。

Instagramについては各動物広場での運用も始まり、動物広場の存在をより身近に感じていただける広報への取り組みも進んでいる。引き続き、より多くの人にハーモニーセンターを知ってもらうため、イベント等の告知にとどまらず、より興味を持ってもらえるようなコンテンツ提供を模索していく。

## 7. その他

### 7.1. 規程変更

法改正、事業運営の実態に合わせて就業規則、賃金規程、非常勤職員就業規則、育児・介護休業規程、退職金規程、健康情報等の取扱規程、情報公開規程を変更した。

### 7.2. 馬の管理

法人所有馬80頭のほか、板橋区が所有する8頭を管理受託、引退競走馬支援団体(TCC)より1頭、個人所有馬1頭を預託し、計90頭の馬を管理した。

この年度に、高齢馬4頭が引退、障害者団体や放課後デイサービスを行う施設などへ譲渡した。近年、乗馬クラブ以外での馬・ポニーの活用が広がりつつある中で、安全に使用できる馬の需要が増している。

2022年度から法人内でポニー乗馬指導者技能認定制度を実施し、2度の試験を実施。Dグレード2名・Cグレード12名・Bグレード2名が合格となった。Aグレード合格者を対象とする全乗振指導者資格受験への可能性が見えつつある。活動に適したポニーの供給には、馬の適性を判断する技術やトレーニング技術が必要であり、調教・馴致にかかる時間も必要となるので、今後もスキルの継承を途絶えることなく進めていきたい。併せてセラピーを含むこの領域でのポニーの需要に応えるハーモニセンターのポニーを提供できるように準備を進めたい。

### 7.3. カウンセラー・職員等の研修

#### A. カウンセラー募集と研修

今年度は、学校での説明会も複数実施することができ、ボランティア募集サイトやホームページからの問い合わせも多数あったため、昨年度を上回る120名の新規登録があった。新規登録者には広場での実習にとどまり、キャンプや移動動物園などの自主事業への参加につながらない場合もあり、今後の課題である。

活動においては、キャンプや移動乗馬の活動や、対面のミーティングなどでカウンセラー同士が直接顔を合わせる機会が増えてきた。そのため、カウンセラー同士の関係ができ、継続して活動する人数も増えてきたように感じる。まだまだ経験や技術が足りないところもあるが、そういった部分を研修などで補いながらよりよい活動ができるようにしている。

コロナ禍によって対面での活動の機会が減り、途絶えたものがあったことは痛手であった。しかし同時に、そのことが今までにないカウンセラーの主体的なかかわり方を生んだ。1月に小貝川ポニー牧場で実施した「ハモタウン」では、スタッフはほぼ関与せず、カウンセラーだけで大きなイベントを作り上げた。カウンセラーの勢いは確実に戻ってきている。

#### 登録カウンセラー数

継続登録者数	新規登録者数	合計
70名	120名	190名

## B. 職員研修

研修委員会を中心に内容を検討し、以下の通り職員対象の研修を行った。

日程	内容	対象者
4月25日	団体理念と歴史、馬の取り扱い、接遇マナー	1・2年目職員
7月11日～12日	施設長研修	施設長等
11月14日	馬の取り扱い、個人情報、ハラスメント、リスクマネジメント	20代後半職員
11月21日～22日	代行研修	施設長代行等
12月5日	団体理念と歴史、馬の取り扱い	1・2年目職員
1月30日	馬とのコミュニケーション、接遇マナー	3年目職員
2月20日	新企画立案	40代以上職員
2月21日～25日	乗馬研修	—
2月27日	新企画立案	30代職員

また、職員2名がアメリカキャンプ協会の年次大会に参加するとともに、重い病気を経験した子どもを対象とするキャンプ「Camp Boggy Creek」を訪問し、Special Needs Camp の手法について学んだ。

このほかにも、担当事業に関連する外部研修に職員を積極的に派遣した。

## 7.4. 会議等

### A. 理事会・評議員会等

第1回理事会	5月22日
第1号議案	2021年度事業報告及び決算承認の件
第2号議案	定款変更の件
第3号議案	定時評議員会開催の件
定時評議員会	6月14日
第1号議案	2021年度貸借対照表及び正味財産増減計算書承認の件
第2回理事会	3月21日
第1号議案	2023年度事業計画書並びに予算承認の件
第2号議案	規程改定の件
第3号議案	退職積立金の修正および施設修繕費等積立の件
第4号議案	重要な使用人の選任の件
第5号議案	期末賞与支給の件
第6号議案	ポニー譲渡の件
役員ミーティング	9月18日

### B. その他

新年互礼会	1月16日
入職式	4月1日
運営会議	4月18日・5月16日・6月2日・6月10日・6月20日・7月13日・9月5日・9月9日 9月20日・10月3日・11月11日・11月28日・12月12日・1月5日・2月13日・3月6日
施設長会議	4月18日・5月16日・6月20日・7月11日・9月5日・10月3日・11月28日 12月13日・2月13日・3月2日

## 7.5. 法人事務

円滑に法人運営が行えるよう、以下の事務を行った。この年度は、労務管理ソフトウェアを導入するなど、職員の業務負担の軽減を図った。

- (1) 事業執行管理
- (2) 経営管理
- (3) 人事労務管理
- (4) 会員管理
- (5) 寄付金・助成金事務
- (6) 渉外事務
- (7) 庶務

## 7.6. 賛助会員

賛助会員A 466世帯

賛助会員B 99名